
 学 会 記 事

第 101 回膠原病研究会

日 時 平成 27 年 11 月 10 日 (火)
午後 6 時 30 分～
会 場 新潟大学医学部 有千記念館

I. 一 般 演 題

1 新潟県立リウマチセンターにおけるリンパ増殖性疾患の発症状況

中野 貴明・高井 千夏***
小林 大介***・伊藤 聡*・阿部 麻美*
大谷 博*・石川 崇*・村澤 章*
成田 一衛**・中園 清*

新潟大学医学部医学科
新潟県立リウマチセンターリウマチ科*
新潟大学大学院医歯学総合研究科
膠原病内科学分野**

【目的】当院通院中の関節リウマチ (RA) 患者におけるリンパ増殖性疾患 (LPD) の発症状況を明らかにする。

【方法】2006 年 11 月～2015 年 6 月の間に病理学的に LPD と診断された 19 例 (男性 10 例, 女性 9 例) の診療録をレトロスペクティブに調査する。検査値は中間値と四分位範囲で表示した。

【結果】LPD 発症年齢の中央値は 71 (60.5 - 79.5) 歳, RA の罹病期間の中央値は 15.5 (9.3 - 21) 年であった。RA の病期は Steinbrocker の Stage III が 8 例, IV が 11 例で罹病期間が比較的長期の症例が多いと考えられた。併用薬剤では 19 例中 16 例でメトトレキサート (MTX) が使用されており, 4 例でタクロリムスが使用されていた。生物学的製剤は MTX 併用のもと 7 例で使用されており 6 例がインフリキシマブ, 1 例がインフリキシマブの二次無効でゴリムマブを使用中の症例で

あった。病理組織学的診断は, びまん性大細胞リンパ腫が 8 例と最多で, ホジキンリンパ腫が 4 例であった。2015 年 9 月時点での生存症例は 11 例, 死亡症例は 8 例で生存期間は 31 (7 - 40) か月であった。LPD 診断 6 か月前と診断時を比較すると, CRP 値は (0.2 (0.1 - 0.4) vs 3.2 (1.9 - 5.5) mg/dL, $p < 0.001$) と上昇していたが, 腫脹関節数, 圧痛関節数, MMP-3 値はそれぞれ (0 (0 - 2.0) vs 0.5 (0 - 3.5), $p = 0.343$), (0 (0 - 2) vs 0 (0 - 2), $p = 0.56$), (90.8 (51.5 - 117.5) vs 96.3 (66.2 - 146.1) ng/mL, $p = 0.35$) と変化を認めなかった (Wilcoxon signed - rank test)。

【結論】16/19 例が MTX 使用中の患者であり, MTX 使用患者では LPD 発症に注意が必要であり, 特に関節症状の悪化を伴わない CRP 上昇は LPD 発症時の特徴と考えられた。

2 当院におけるエタネルセプトの有効性と継続性の検討

藤澤 純一・近藤 直樹・村井 丈寛
工藤 尚子・遠藤 直人・荒井 勝光

新潟大学大学院医歯学総合研究科
機能再建医学講座 整形外科学分野

【目的】当院におけるエタネルセプトの有効性と継続性について検討すること。

【対象と方法】2001 年 5 月より 2015 年 8 月までの間に, 当院において, JCR のガイドラインに基づきエタネルセプトを導入した, ACR criteria を満たす関節リウマチの 212 例, 男性 34 例, 女性 178 例。生物学的製剤導入時平均年齢は 55.9 歳。導入までの平均罹患期間は 10.9 年, 導入後の平均観察期間は 3.0 年。検討項目は, 導入時年齢, RA 罹患期間について, DAS28 (3) - CRP の導入前, 及び導入後の推移について, 継続率は Kaplan - Meier 法を用いて算出した。生物学的製剤使用歴は, naïve 例と switch 例について, そして中止理由, 合併症について検討した。

【結果】投与開始時平均年齢と RA 罹患期間で, Etanercept 単独例が MTX 併用例より高かった。